

2022 年度 伊賀市外国人住民アンケート調査報告書

■はじめに

2022 年 12 月末現在、伊賀市の人口は 87,139 人であるが、そのうち外国人住民は 5,614 人であり、総人口の 6.44%を占めている。

1990 年代から日系南米人労働者が多く来日し、永住、定住化する外国人が増えた。家族の呼び寄せや結婚等により2世代、3世代で居住している外国人世帯も増えている。

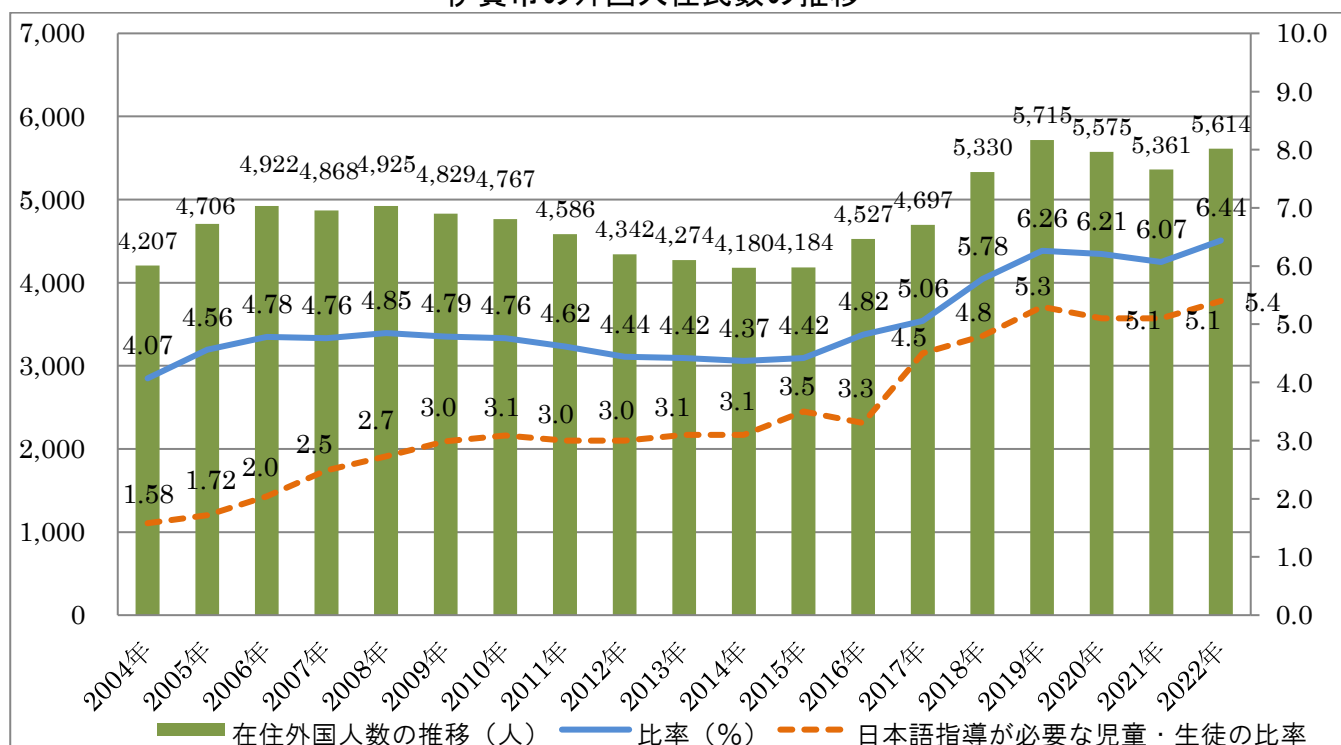
また、市内の小中学校における外国人児童生徒数も増加しており 2022(令和4)年度では、日本語指導が必要な児童・生徒数の割合が 5.4%となっている。

2008 年のリーマンショックの影響や 2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大により一時的に外国人住民数は減少したが、景気や社会情勢の回復とともに増加に転じている。日本人を含めた総人口は年々減少している中、外国人住民の数が増加しているため、比率は過去最高の数値を示している。

一方、国籍別構成の変化が近年顕著に表れている。技能実習生制度や一定の専門性・技能を有する外国人の新たな在留資格「特定技能」が創設され、ベトナム、フィリピンやインドネシア等のアジア圏出身の外国人住民が増加している。

出身国も45カ国と多様な文化をもつ外国人がいることから、ますます日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい、多文化共生のまちづくりを進めていくことが必要である。

伊賀市の外国人住民数の推移



【アンケート調査結果概要】

■調査期間 2022 年 10 月 1 日～11 月 14 日

■対 象 者 2022 年 10 月 1 日現在、伊賀市に在住する 18 歳以上の外国人住民

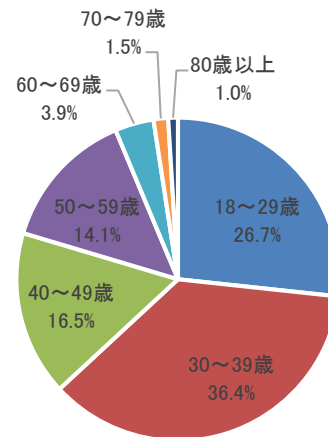
■調査方法 住民基本台帳より 1,000 人を無作為抽出し、アンケート協力依頼はがきを送付

■回 答 数 206 人

調査結果及び分析

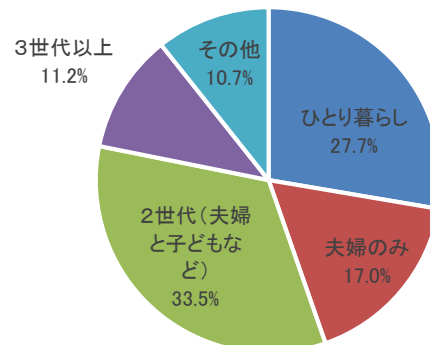
【あなた自身について】

問 1 (1) 年齢	回答数	割合
18～29 歳	55	26.7%
30～39 歳	75	36.4%
40～49 歳	34	16.5%
50～59 歳	29	14.1%
60～69 歳	8	3.9%
70～79 歳	3	1.5%
80 歳以上	2	1.0%
合計	206	100.0%



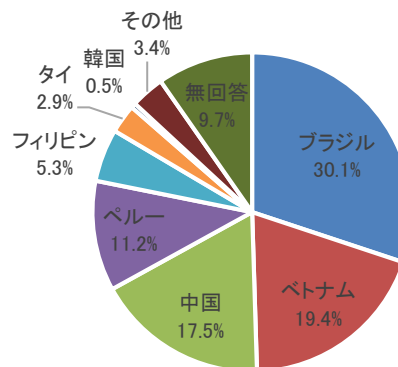
・「30～39 歳」が 36.4%と最も多く、次いで「18～29 歳」(26.7%)、「40～49 歳」と続く。回答者の 79.6%が 50 歳未満であった。

(2)世帯構成	回答数	割合
ひとり暮らし	57	27.7%
夫婦のみ	35	17.0%
2世代(夫婦と子どもなど)	69	33.5%
3世代以上	23	11.2%
その他	22	10.7%
合計	206	100.0%



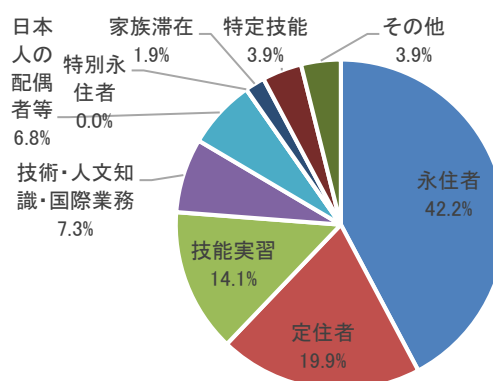
・「2世代」が最も多く、33.5%。「ひとり暮らし」が 27.7%であった。
「夫婦」のみ、「2世代」、「3世代」の合計は全体の 61.7%を占め家族で構成される世帯の回答者が多かった。

(3)国籍	回答数	割合
ブラジル	62	30.1%
ベトナム	40	19.4%
中国	36	17.5%
ペルー	23	11.2%
フィリピン	11	5.3%
タイ	6	2.9%
韓国	1	0.5%
その他	7	3.4%
無回答	20	9.7%
合計	206	100.0%



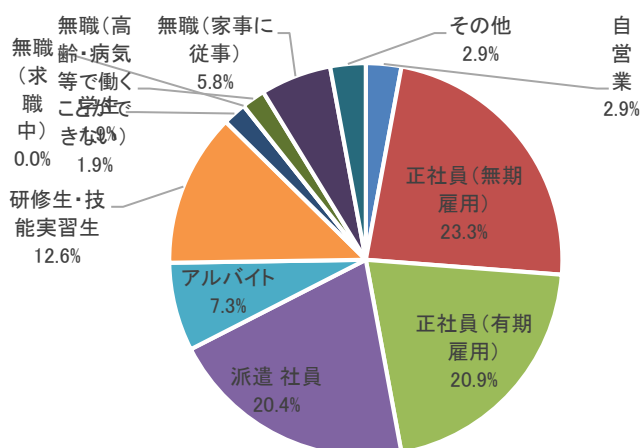
・「ブラジル」が 30.1%と最も多く、次いで「ベトナム」(19.4%)、「中国」(17.5%)、「ペルー」(11.2%)であった。これは、当市の外国人住民数の国籍順とほぼ同じである。

(4)在留資格	回答数	割合
永住者	87	42.2%
定住者	41	19.9%
技能実習	29	14.1%
技術・人文知識・国際業務	15	7.3%
日本人の配偶者等	14	6.8%
特別永住者	0	0.0%
家族滞在	4	1.9%
特定技能	8	3.9%
その他	8	3.9%
合計	206	100.0%



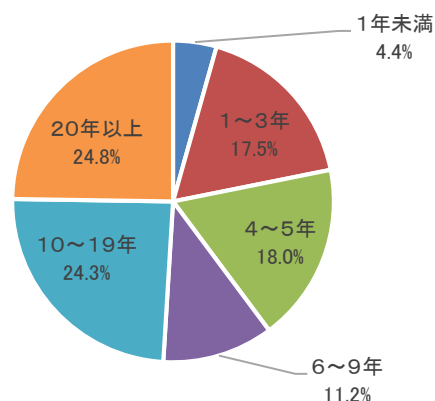
・永住者が最も多い。
・就労制限がない「永住者・定住者・日本人の配偶者等」の割合は、68.9%で「技能実習」は 14.1%、「特定技能」は 3.9%であった。当市の構成割合とほぼ同じ割合である。

(5) 職業	回答数	割合
自営業	6	2.9%
正社員(無期 雇用)	48	23.3%
正社員(有期 雇用)	43	20.9%
派遣 社員	42	20.4%
アルバイト	15	7.3%
研修生・技能実習生	26	12.6%
学生	4	1.9%
無職(求職中)	0	0.0%
無職(高齢・病気等で働くことができない)	4	1.9%
無職(家事に従事)	12	5.8%
その他	6	2.9%
合計	206	100.0%



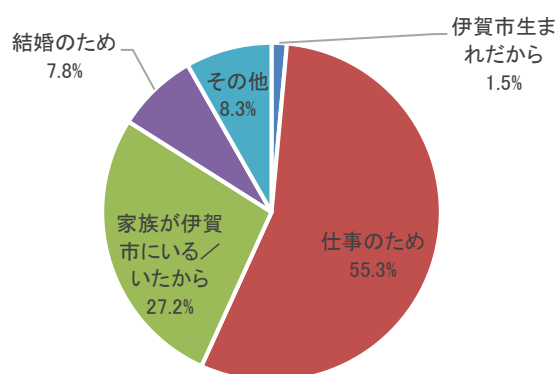
・「技能実習生」(12.6%)を除き、「派遣社員」(20.4%)、「正社員(無期雇用)」(23.3%)、「正社員(有期雇用)」(20.9%)が多くを占めている。有期雇用が多く不安定な雇用条件のもと働いていることがわかる。

(6) 日本での滞在年数(通算)	回答数	割合
1年未満	9	4.4%
1～3年	36	17.5%
4～5年	37	18.0%
6～9年	23	11.2%
10～19年	50	24.3%
20年以上	51	24.8%
合計	206	100.0%



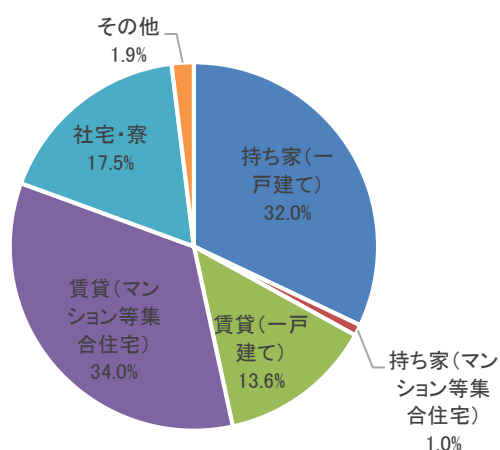
・10年以上日本に住んでいる割合が、49.1%で約半数。コロナ禍の影響で、入国制限があったため1年未満の割合が少ない。

(7) 伊賀市に住んだ理由	回答数	割合
伊賀市生まれだから	3	1.5%
仕事のため	114	55.3%
家族が伊賀市にいる／いたから	56	27.2%
結婚のため	16	7.8%
その他	17	8.3%
合計	206	100.0%



・「仕事のため」(55.3%)が最も多く、次いで「家族がいる／いたから」(27.2%)となっている。

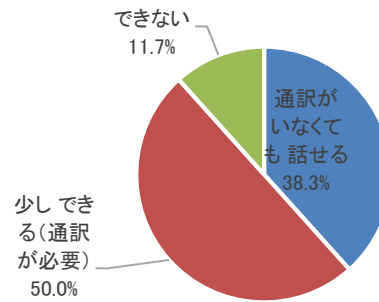
(8) 住居形態	回答数	割合
持ち家(一戸建て)	66	32.0%
持ち家(マンション等集合住宅)	2	1.0%
賃貸(一戸建て)	28	13.6%
賃貸(マンション等集合住宅)	70	34.0%
社宅・寮	36	17.5%
その他	4	1.9%
合計	206	100.0%



・賃貸の住宅に住む割合が高いが、「持ち家」と答えた割合が32.0%おり、「賃貸(一戸建て)」(13.6%)と合わせると、45.6%となっている。一戸建てに住む外国人も増えていることがわかる。

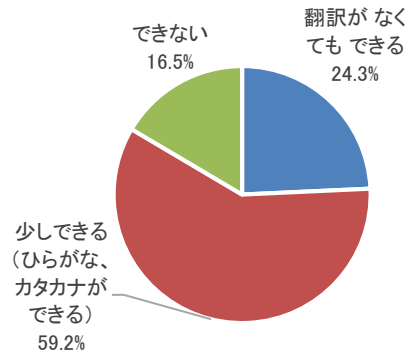
【日本語について】

問2 日本語を話せますか。	回答数	割合
通訳がいなくても話せる	79	38.3%
少しできる(通訳が必要)	103	50.0%
できない	24	11.7%
合計	206	100.0%



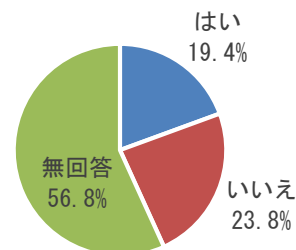
・「話せる」(38.3%)と「少し話せる」(50.0%)を合わせると約90%となっている。

問3 日本語を 読んだり 書いたり できますか。	回答数	割合
翻訳がなくてもできる	50	24.3%
少しできる(ひらがな、カタカナが できる)	122	59.2%
できない	34	16.5%
合計	206	100.0%



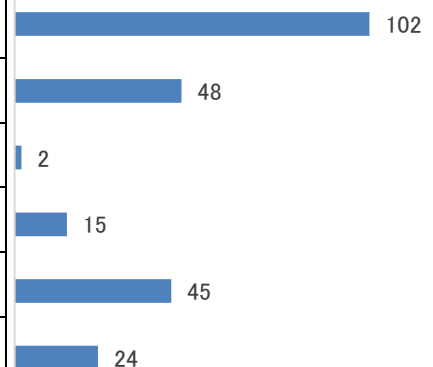
- ・「翻訳がなくてもできる」が(24.3%)いる。
- ・「少しできる」(59.2%)と「できない」(16.5%)を合わせると約 75%となっている。
- ・日本語が話せない人の割合(11.7%)より「読んだり書いたり出来ない」割合(16.5%)の方が高く、文字習得が難しいことがわかる。

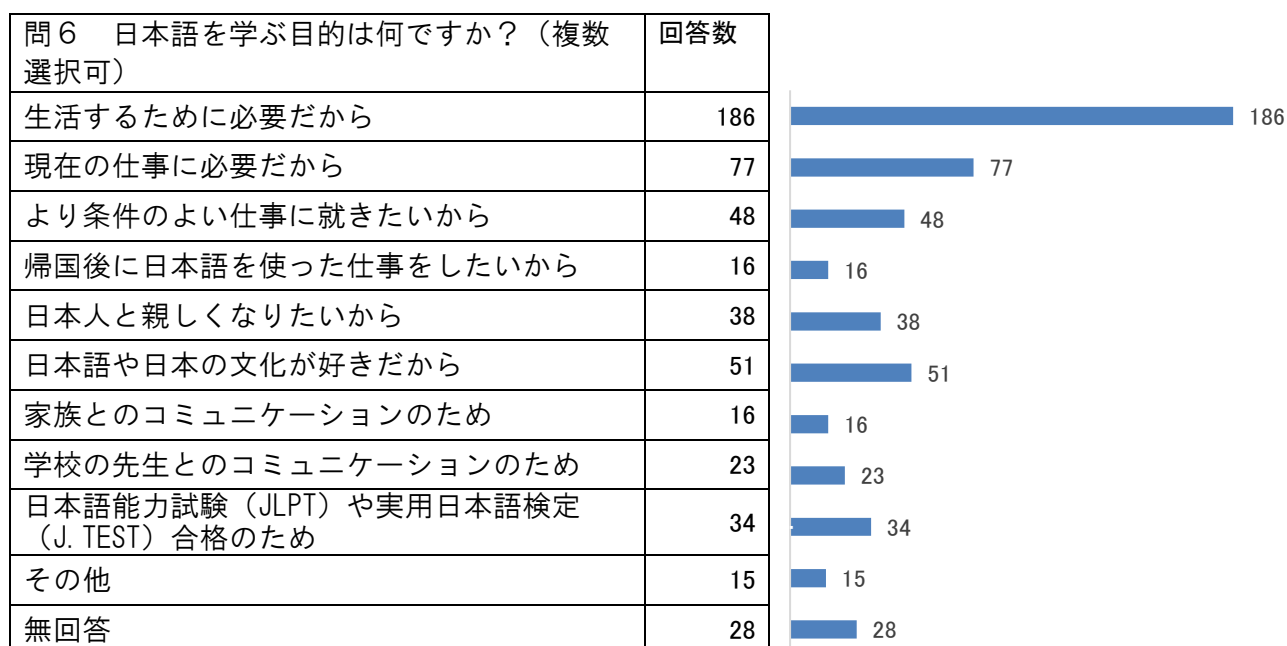
問4 あなたは今、日本語を学んでいますか。	回答数	割合
はい	40	19.4%
いいえ	49	23.8%
無回答	117	56.8%
合計	206	100.0%



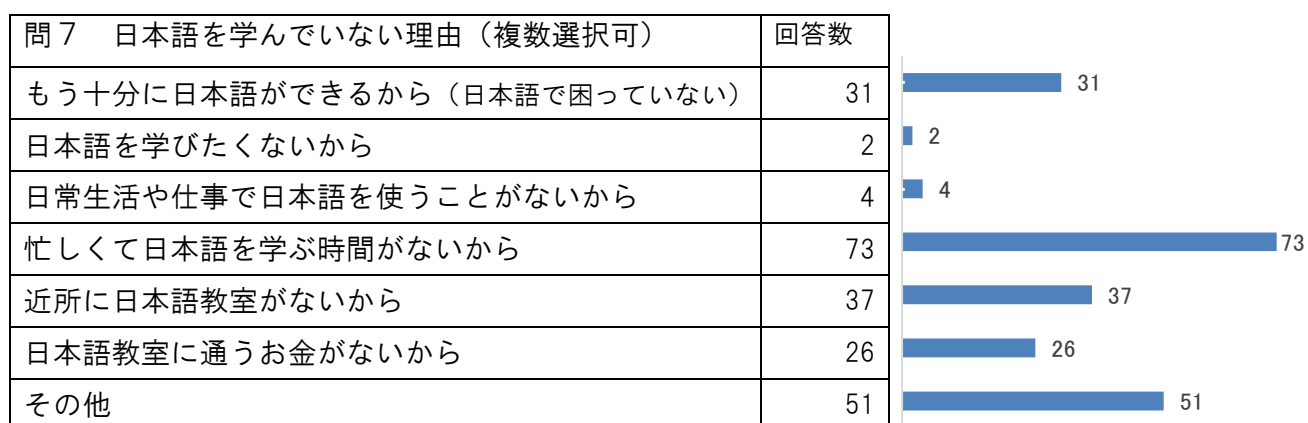
・「日本語を学んでいる」(19.4%)と回答した人の学習方法については、「家で、自分で学習している」が最も多く、会社やボランティア教室などで勉強している人などがある。

問5 どうやって日本語を学習していますか？(複数選択可)	回答数
家で、自分で学習している	102
会社で日本人従業員に教えてもらっている	48
会社で日本語の先生に教えてもらっている	2
ボランティア教室で勉強している	15
その他	45
無回答	24

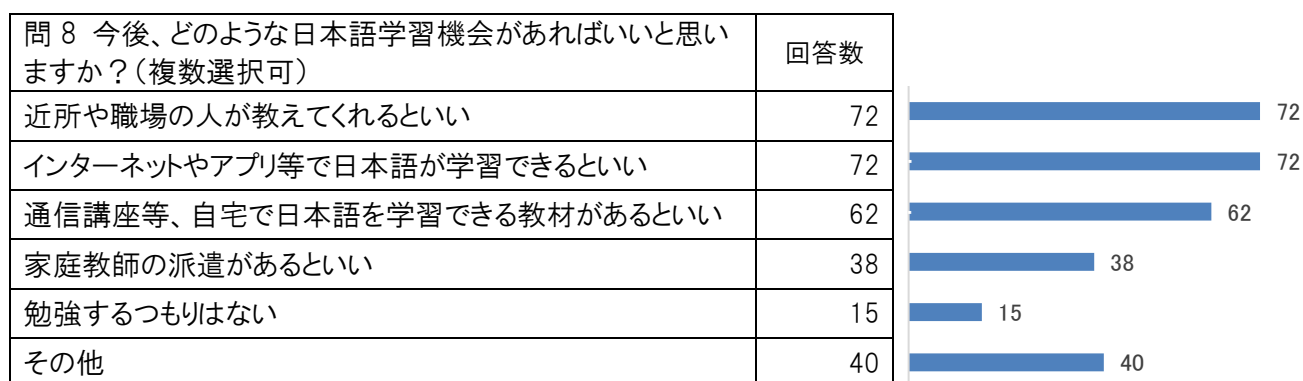




・日本語を学ぶ目的は、「生活するために必要だから」が最も多く、「現在の仕事に必要なだから」、「日本語や日本の文化が好きだから」と続く。仕事以外にも日本人とのコミュニケーションを図るために必要と感じている回答もみられた。

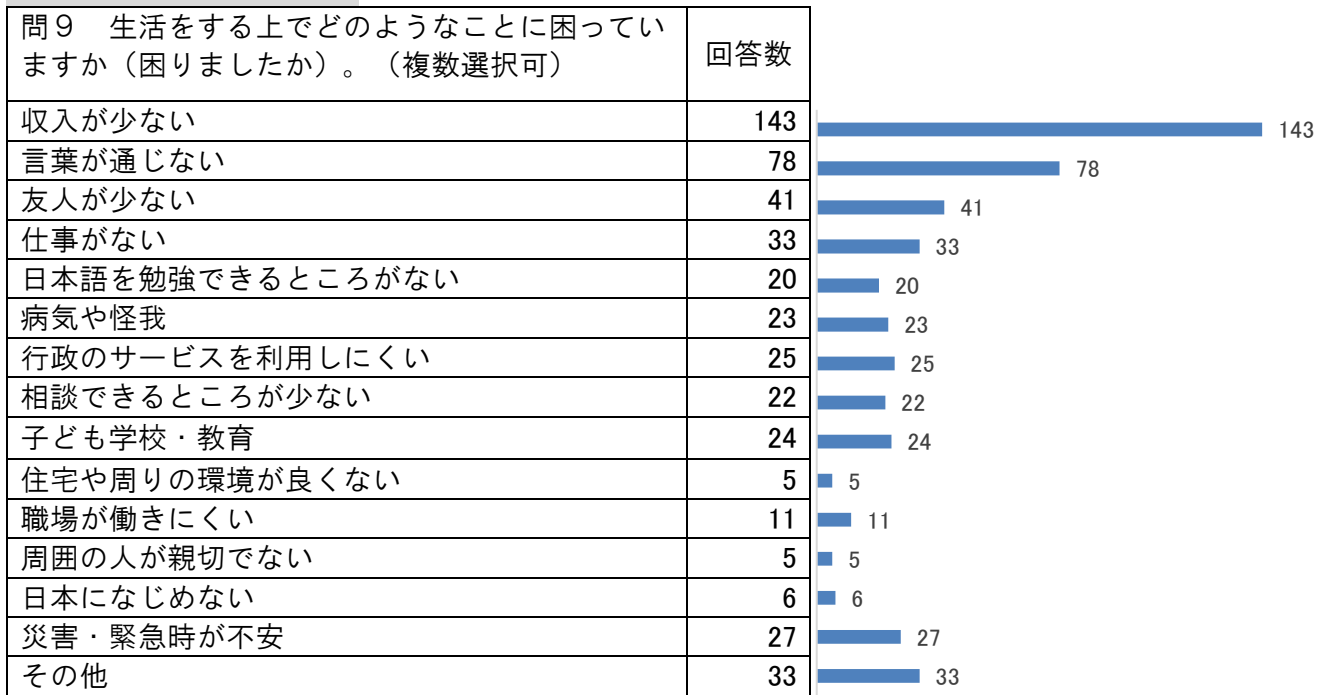


・日本語を学んでいない理由としては、「忙しくて日本語を学ぶ時間がないから」が最も多く、「近所に日本語教室がないから」、「日本語教室に通うお金がないから」など生活スタイルや日本語教室に通える環境にないと考えている回答が多かった。

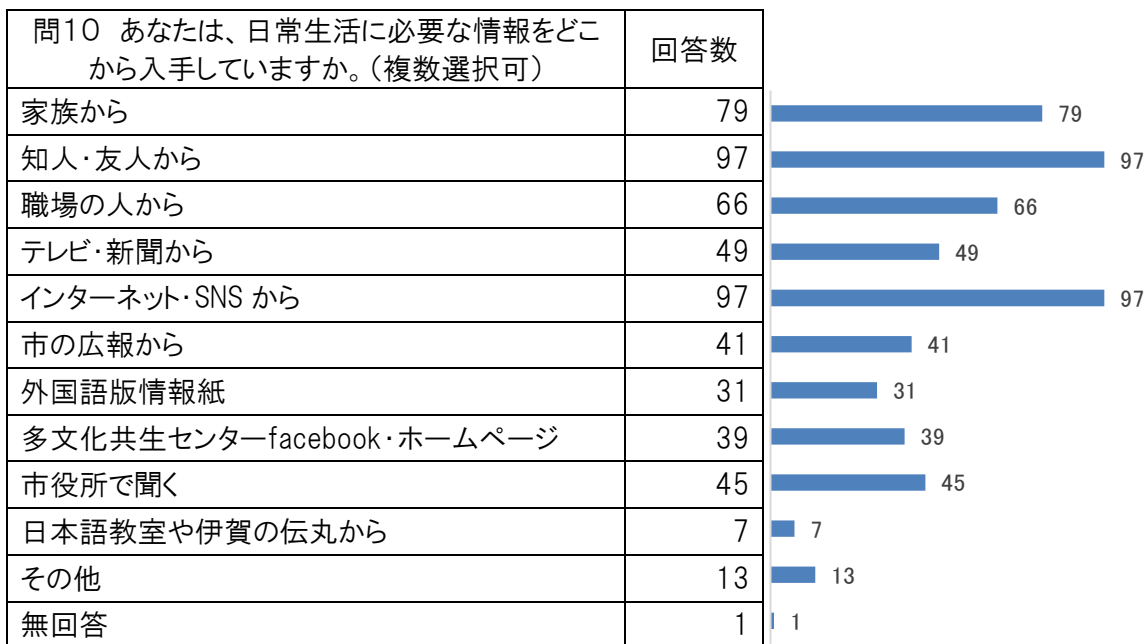


・日本語の学習機会については、インターネットやアプリの活用、通信講座など自宅で学習できるスタイルを希望していることがわかる。また、近所の人や家庭教師など自分のニーズにあった人と学習したいという希望があることもわかる。

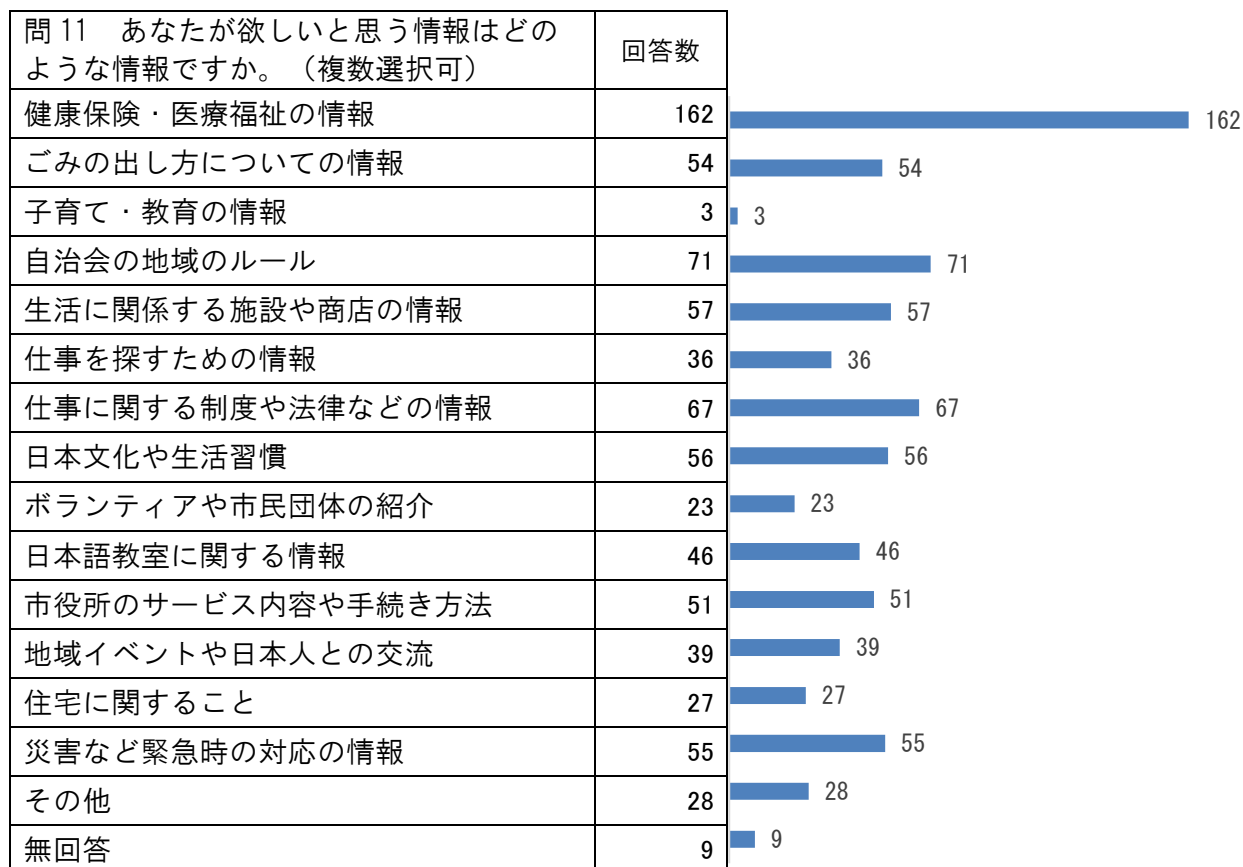
【情報・交流について】



・生活の困り事に関しては、「収入が少ない」との回答が最も多かった。次いで「言葉が通じない」や「友人が少ない」という回答が続いた。

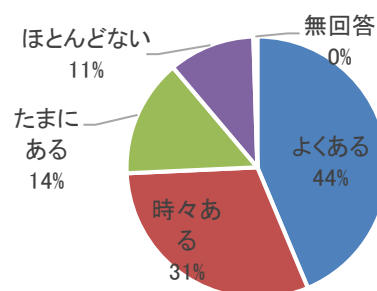


・情報源は、「インターネット・SNS から」と「知人・友人から」が多く、次いで「家族から」、「職場の人から」となっている。広報媒体や市からの広報物から情報を得ているとの回答もある。



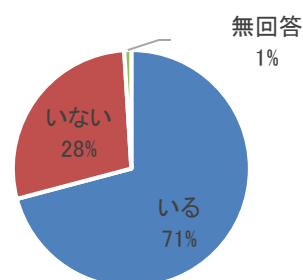
・伊賀市では多言語情報紙 IGA を発行しているが、アンケート結果にある知りたい情報を掲載しており、ニーズにあった広報を行っていることがわかる。市からの多言語情報について、より周知し生活に密着した情報提供を行っていく必要がある。

問 12 あなたは、日常生活で日本人と会話することがありますか。	回答数	割合
よくある	90	43.7%
時々ある	63	30.6%
たまにある	30	14.6%
ほとんどない	22	10.7%
無回答	1	0.5%
合計	206	100.0%



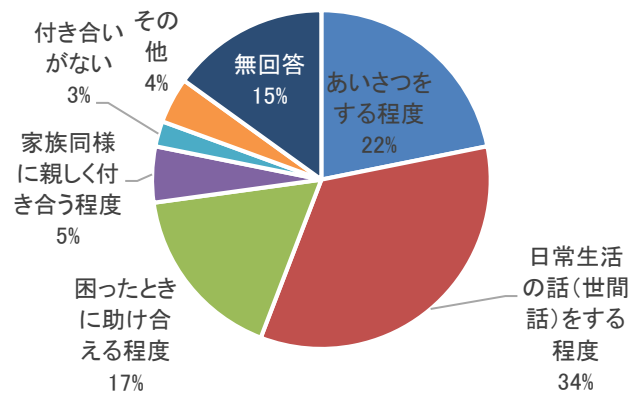
・日本人と会話することが「よくある」の割合（43.7%）と最も高く、次いで「時々ある」の割合が（30.6%）となっており、日常的に日本人と何らかの接点がある人が、74.3%となっている。

問 13 あなたは、伊賀市に住む日本人の友人や同僚がいますか。	回答数	割合
いる	146	70.9%
いない	58	28.2%
無回答	2	1.0%
合計	206	100.0%



・「友人や同僚がいる」の割合は 70.9%だった。この結果は会話する関係が「よくある」、「時々ある」の割合と近い。

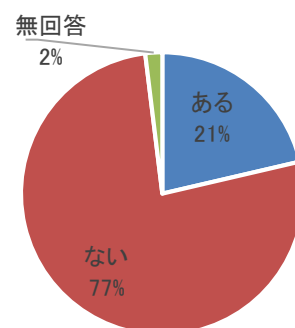
問 14 日常生活で日本人とどのような交流をしていますか。	回答数	割合
あいさつをする程度	45	21.8%
日常生活の話(世間話)をする程度	70	34.0%
困ったときに助け合える程度	35	17.0%
家族同様に親しく付き合う程度	11	5.3%
付き合いがない	5	2.4%
その他	9	4.4%
無回答	31	15.0%
合計	206	100.0%



・交流の内容は、日常生活の話(世間話)の割合(30.4%)が最も多く、次いで「あいさつをする程度」(21.8%)、困った時に助け合える程度」(17.0%)となっている。

【人権・子育てについて】

問 15 あなたは、これまでの伊賀市での生活において、3年以内に差別を受けた経験がありますか。	回答数	割合
ある	44	21.4%
ない	158	76.7%
無回答	4	1.9%
合計	206	100.0%

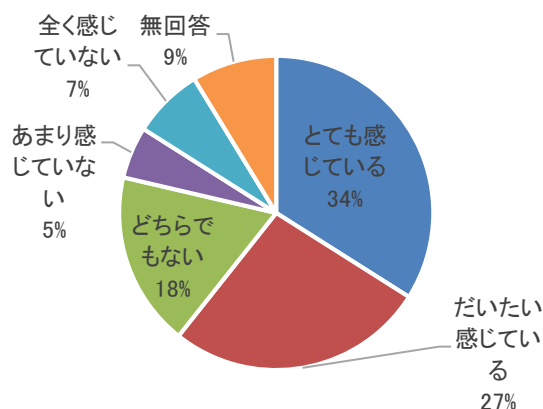


・差別を受けた経験があると回答した割合は、21.4%であった。

○問 16 問 15 の回答理由

- 小学生の長女は、一年を通してクラスメートに話しかけられず、授業に出席したくありませんでした。
- 大きいまちのように、人々をより友好的にしましょう。
- 伊賀上野はまだ田舎みたいだから、伊賀の人はまだやさしい。街の方は悪い人たくさん。ここは伊賀は差別はない。
- 近所がやさしくない。(近所は日本人です)
- パンデミックが始まったとき、薬局の従業員は私が外国人だったので私に対応することを拒否しました。
- 職場で軽視されるが多いです。
- 在留資格3年で家が借りれない。
- 私たち外国人に対する心の持ち方を改めて欲しい。「相由心生」、初対面やけど顔や態度と口調も、相手を尊重していない、差別しているってわかる。
- 普通に接客してて、まだ用件伺いしてもないのに、いきなり「俺、外人が嫌い！日本人呼んで来い！」と言われたことがあります。
- 日本語がわからないので、仲間外れにされた
- 日本人じゃないだけで、態度全然違う。

問 17 伊賀市は子育てしやすいと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	70	34.0%
だいたい感じている	55	26.7%
どちらでもない	37	18.0%
あまり感じていない	11	5.3%
全く感じていない	15	7.3%
無回答	1	8.7%
合計	206	100.0%



・子育てしやすいと「とても感じている」割合は、34.0%であった。次いで「だいたい感じている」が 26.7%で「どちらでもない」が 18.0%であった。

○問 18 問 17 の回答を選んだ理由

- 先生方は私の子どもたちを常に気遣っていて、私が学校へ行く度に起こったことを知らせてくれます。何か起きたときは学校や市役所を頼れます。
- 良い点は、〇〇小学校のように(いじめを受けてなど)転校してきて子に対し、サポートをし、困難な時期を乗り越えられるよう信頼関係を築き上げている。反対に(悪い点は)高校を卒業し大阪の専門学校に通いたい子への 23 時以降の電車が無い。それは通いたい子たちを困らせます。それと同時に伊賀市外へ出たり、ただ単に進学しない理由に繋がることもある。学生たちへの配慮がもっとあってほしい。
- いくつか学校や市の問題を改善する必要がある
- 静かで人々は優しい
- 保育園や市役所のサポートがあって、外国人を受け入れてくれる伊賀市民もいる
- 伊賀市には自然がいっぱいだから
- 自分の子どもが学校で差別を受けたり、いつかいじめを受けるのが怖い
- 私の息子は伊賀市の学校に通っていました。私たちは満足していました
- 学校に外国人生徒へのサポートがあるから
- 静かな町で、治安を気にしなくてもいい
- 子育てしやすい町、しかしショッピングモール、レストランなどレジャーの選択肢がもっとあれば良い
- 静かな町で住民がお互い助け合っている。
- 例えば、子どもたちを学校まで見送ったり、レジャー、近所付き合い、そして職場内で良い雰囲気を保つためにトラブルがあった時は最もしい解決方法を見つけてくれる。伊賀市に住もうと思った理由は静かな町で、市民として成長できる機会をくれる大好きな国だからです。その上、仕事もくれて生活するためのお金も稼げる
- 通訳のサポートがある。心配事がない
- 伊賀市でできることが少ない

【災害について】

問 19 地震などの大きな災害が起きた時に、あなたはどのようなことが心配ですか。（複数選択可）	回答数	
どこに避難したらよいか分からない	66	66
家族や友人との連絡	85	85
災害情報をどこから得られるか	64	64
理解できる言語で情報が得られるか	66	66
周りの人に自分の意志や願いが通じるか	34	34
わからない	19	19
無回答	9	9

・災害時の心配は、「家族や友人との連絡」が最も多く、次いで「どこに避難したらよいか分からない」、「理解できる言語で情報が得られるか」や「災害情報をどこから得られるか」と回答した数が多い。

問 20 あなたは災害（地震・台風・洪水など）に対する準備をしていますか。（複数選択可）	回答数	
市が指定した避難場所を確認している	124	124
ハザードマップなどで自分の家の周辺の危ない場所を知っている	40	40
市の防災アプリ（HAZARDON）を登録している	10	10
家族や知り合いと連絡方法や避難経路を確認している	31	31
1週間分の食べ物や飲み物を保存している	53	53
懐中電灯・ラジオなどの非常用品を用意している	40	40
家具が倒れないよう、固定している	20	20
地域の防災訓練に参加している	13	13
特に準備していない	74	74
その他	10	10
無回答	8	8

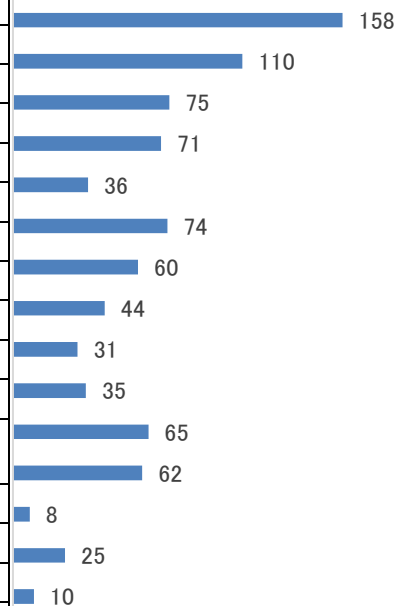
・災害に対する準備として、「避難場所を確認している」との回答が最も多い。次いで、食料、飲み物、非常用品の備えをしていると回答した人が多かった。

・「特に何もしていない」と回答した人も一定数いた。

・外国人住民は、日本語での読み書きが出来ない人が多く、災害時に提供される日本語での情報にアクセスしにくく、不安を感じていることがわかる。

【多文化共生のまちづくりについて】

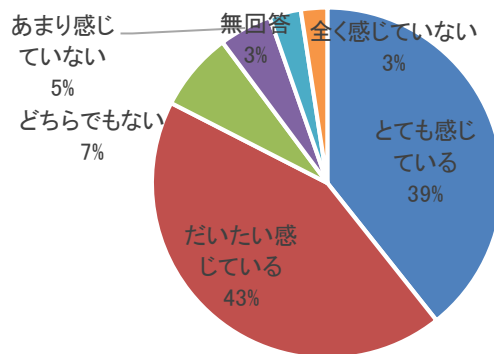
問 21 あなたは外国人と日本人が交流し、地域で一緒に生活するために、市はどんなことに取り組む必要があると思いますか。（複数選択可）	回答数
多言語による情報提供の充実	158
外国人の日本語学習支援	110
日本の法律や生活上のルールなどの案内	75
外国人の子どもに対する教育の充実	71
小さな子ども（0歳～6歳）がいる外国人の子育て支援	36
外国人相談窓口の充実	74
日本人と外国人の交流イベントの企画	60
日本人と外国人が意見を交換する場づくり	44
町内会活動に参加をすすめる	31
外国人を支援するボランティアを育てる	35
外国人と日本人がお互いの文化を尊重する意識づくり（多文化共生の意識啓発）	65
日本と外国の生活習慣や文化などの紹介	62
その他	8
特になし	25
無回答	10



・市の取り組みについては、「多言語による情報提供の充実」が最も多く、日本語学習支援や相談窓口の充実など、生活にかかる支援について必要と思う人が多かった。

・「日本人と外国人の交流イベントの企画」、「日本人と外国人が意見を交換する場づくり」、「外国人と日本人がお互いの文化を尊重する意識づくり」など市民同士の交流を必要と思う人も多かった。

問 22 伊賀市に住んでよかったと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	81	39.3%
だいたい感じている	89	43.2%
どちらでもない	15	7.3%
あまり感じていない	10	4.9%
全く感じていない	6	2.9%
無回答	5	2.4%
合計	206	100.0%



・伊賀市に住んで良かったと「とても感じている」割合は、39.3%だった。「とても感じている」と「だいたい感じている」を合わせると 82.5%となっている。

【問 23】 問 22 の回答理由

- 専門医のいる大きい病院がない。病気のせい(でしんどい)にも関わらず、病気の原因がわからない時はほとんどのお医者さんはストレスや年齢のせいにする。仕事の選択肢が少ない。何かを勉強したい人への勉強の場がない。商業施設の開店時間が遅いけど閉店が早い。夜開いているレストランが少ないから夜仕事終わりに家族とご飯は難しい。映画館がない。
- 静かな場所です。
- 今までに悪い出来事がなく、安心しています。子どもたちは問題なく登下校ができ、仕事でも彼らが安全であることがわかるので安心です。
- 私にとっては給料や仕事の内容はあまり気に入らない。その上、田舎の商業施設も良くない。

- 上野は静かな町で、自然災害の危険性が低い。仕事はあるが、給料が低い。
- 伊賀市に 19 年住んでいます。私は伊賀市に友達もいて、スポーツも習っていて、仕事の選択肢も多いし、子育てにも適していて、市役所には外国人へのサポートもある。
- 伊賀市はとても静かで、人々はフレンドリー。
- とても静かだから。
- もっと良くなってほしい。レストランやスーパーがない。
- 私は伊賀市で生まれ育ち、人生の半分以上住んでいます。この町の静けさに慣れていて、名張市、滋賀県、鈴鹿市、津市などの市外へ出るのもあまり遠く感じないです。
- 静かな町で、市役所のサポートが良い。
- 静かな町で、山に囲まれているから台風はあまり強くないそして地震もあまり強くない。
- 給料が安い、生活費がとても高い。
- 家賃がとても高い。
- 生まれ育った場所だから。
- 伊賀が好き。
- いつもとても良く受け入れてもらっていて、日本語を話せなくても多文化共生のイベントやボランティアをしています。
- 初日からみんなから快く受け入れてもらえました。私と私の家族は全てにおいて感謝しかありません。
- 住むのに良いところです。
- 観光スポットが少なく、小さい町そして税金が高い。
- 田舎に住むのが好きです。そして伊賀市は静かな町です。